



20 青磁青華唐獅子文花瓶
宮川香山(二代) 一点

昭和三年(一九二八)
陶磁 径四三・五、高四三・五

首部と下部に青磁釉をほどこし、堂々と豊かに張り出した胴部には染付で飛び跳ね回って躍動する獅子たちが描かれた花瓶。このような姿形の獅子は狂獅子と呼ばれ、本作では獅子たちは互いに視線を交わしながら跳ねており、単体で切り離されることなく、見る角度によって有機的に一つの画面を構成している。

宮川香山(二代…一八五九〜一九四〇)は、本名を半之助といい、初代香山の兄の子であったが、幼くして父をなくし、初代香山の養子となった。明治期にはアメリカやヨーロッパの最新の製陶業や万国博覧会を視察し、西欧の趣向をいち早く自らの真葛窯の製品に反映させた。大正六年(一九一七)に二代香山を襲名する頃から、東洋陶磁の伝統に則った作風へと回帰した。昭和二年に東陶会を結成し、昭和戦前期の関東陶芸界で重きをなした。本作は青磁と青華(染付)を併用した爽やかな印象を抱かせる作品で、これまで香山の回顧展などで紹介されたなかでは二代香山に多く見られる技法である。昭和三年の大礼の際、香淳皇后より昭和天皇へ贈られた品である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

虎・獅子・ライオン

— 日本美術に見る勇猛美のイメージ

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 51

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年七月十七日発行

© 2010 The Museum of the Imperial Collections